

大学入試における 英語 4 技能評価のあり方について

羽藤由美

京都工芸繊維大学・教授

- ◆ 「英語4技能の統合育成」と「言語テストへのスピーキングテスト導入」を支持する立場から、
- ◆ 大学生対象のCBT(コンピュータ方式)スピーキングテストと高校生対象のテレビ電話方式スピーキングテストを開発・運営してきた実績に基いて、情報共有させていただきます。



◆ 共有させていただきたい情報（結論）

1. テストの品質維持・向上や公正・公平な試験運営と民間試験事業者の利潤の間には必然的なトレードオフがあるので、固定数の(必然的に減少する)受験者を複数の事業者に奪い合わせる形で民間試験を利用すると、ステークホルダー（受験生，保護者，教員等）の納得感を得られる入学者選抜ができない。→ 制度破綻の可能性
2. 個々の大学が単独で(たとえば個別入試に)スピーキングテストを導入することは、特例を除いてほぼ不可能
3. 長期的に考えることができるなら、今後のAIの発展などを見据えて、産学の協働で、米国のETSや英国のCambridge Assessmentのようなテストングエージェンシーを作ることにも可能。→ やるなら本気で！
4. これまでの「英語教育改革」は手段(民間試験の成績向上や利用推進, 「英語の授業は英語で」など)が目的化しており、本来の目的達成(英語能力向上)につながりにくい。→ リソースの有効利用, 集中投下を！
5. あえて2025年度入試から4技能評価を導入するなら、CEFRはしばらく棚上げして、教師が普段の授業を通して生徒の能力を実感し相対化できるような状況に、指導の現場を近づけていく方法を考えた方がよい。

◆ 前提

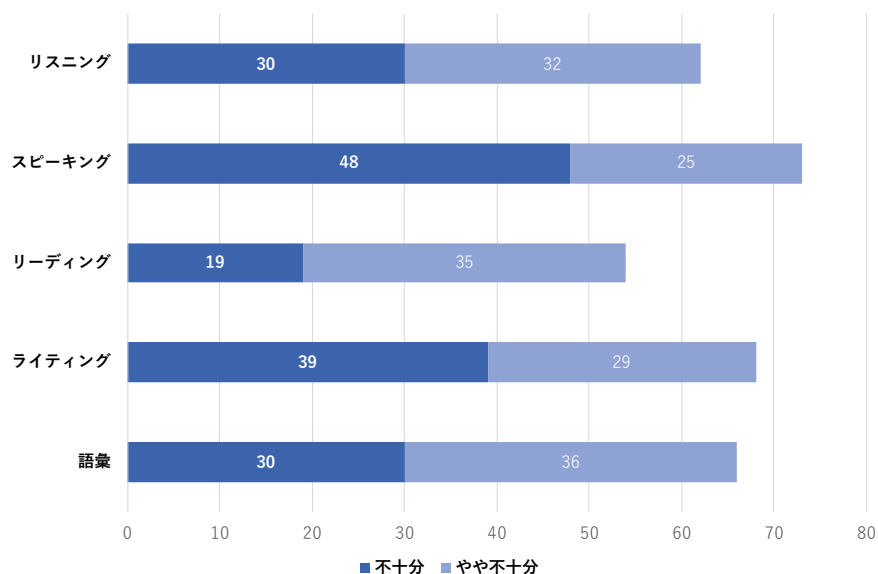
外国語の指導・評価から「スピーキング」という選択肢を積極的に除外する理由は見当たらない。

入試においても同様。重要なのは、導入の費用(弊害を含む)対効果を見極めること。

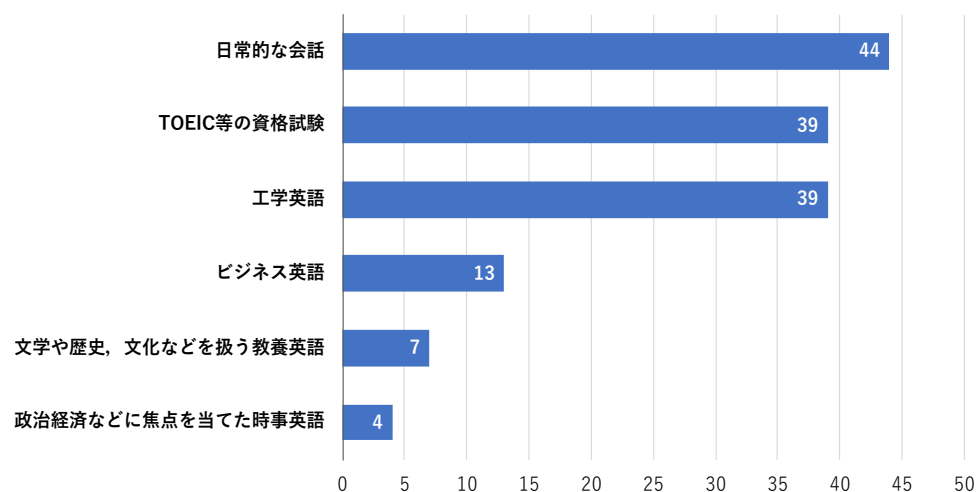
京都工芸繊維大学大学院の英語クラスを受講中の大学院生+学部4年生(83名)を対象とするアンケート調査, 2019年5, 6月実施

研究を行う上での英語力の自己診断

(不十分, やや不十分, どちらとも言えない, ほぼ十分, 十分)



大学院の授業ではどのような英語に重点を置くべきか (2択)



◆ 研究テーマ

スピーキング能力が発達するメカニズム

リンガフランカ(共通語)として英語を使う能力を測るスピーキングテストの開発

大学・大学院入試への英語スピーキングテスト導入の可能性を探る(費用対効果の確認)



共通テストへの拙速な民間試験導入反対

◆ スピーキングテスト開発・運営の実績

京都工芸繊維大学におけるCBTテスト(2012年始動)

- 対象：大学1年生
- 実施時期：2014年初回実施，2015年より必修科目Interactive Englishの学年末試験として実施
- 受験者：約600名＋モニター（異なるテストバージョンを受けた受験者のスコアを統計的に等化するために全バージョンを受ける受験者）
- 評価観点：2（Task Achievement, Task Delivery）
- 1回の実施に複数のテストバージョンを使用
- IRTによる等化（年度内のみ）
- AO入試への活用（2017年～）

京都市立京都工学院高等学校フロンティア理数科におけるテレビ電話を介したインタビュー方式テスト（2016年始動）

- 対象：高校1，2年生
- 実施時期：2016年度「英語表現Ⅰ」の各学期末考査として実施
2017年度「英語表現Ⅱ」の各学期末考査として実施
- 受験者：2クラス（約55名）
- 評価観点：4（Prepared Speech: Content + Delivery, Spontaneous Interaction: Response + Interaction）
- 単一のテストバージョンを使用

◆ 京都工芸繊維大学におけるCBT英語スピーキングテストの開発・運営

2008年 4月 The Most Demanding English Program in Japan (MODEP-J) → 英語鍛え上げプログラム

※すべての学生を対象に、通常の授業を通してどこまでできるかやってみよう！



2012年10月 教育担当副学長、英語科目担当教員、アドミッションセンター所属教員による研究開発チーム立ち上げ

2013年 1月 シンポジウム「入試改革を考える：大学入試への英語スピーキングテスト導入の可能性をさぐる」開催

5月 科研費 基盤研究(C)「大学入試への英語スピーキングテスト導入にむけた調査研究」採択

2014年 7月 (株)イー・コミュニケーションズ(CBT開発運営会社)、(株)KJホールディングス(河合塾)との共同研究契約締結

9月 「スーパーグローバル大学創成支援」事業採択

10月 テストスペック確立, CBT実施システム・オンライン採点システム完成 → 初回パイロットテスト実施

2015年 1月 第1回(2014年度) 学部1年次生全員対象テスト実施

9月 株式会社QQ English(オンライン英会話レッスン提供会社)との共同研究契約締結

10月 情報科学センター所属教員、テスト理論および心理統計の専門家(学外)を加えた第2次研究開発チーム結成

12月 第2回(2015年度) 学部1年次生全員対象テスト実施

英語必修科目(Interactive English)の学年末試験としての運用開始

国内と並行してフィリピンでの採点開始

2016年 5月 科研費 基盤研究(B)「入学試験や定期考査に利用できる英語スピーキングテストシステム構築のための指針策定」採択

10月 CBTライティングテストの実施システム開発に着手

2017年 1月 第3回(2016年度)学部1年次生全員対象テスト実施

3月 オンライン採点システム改修

12月 2018年度A0(ダビンチ)入試グローバル枠への導入

第4回(2017年度)学部1年次生全員対象テスト実施

2018年 10月 2019年度A0(ダビンチ)入試グローバル枠における実施

12月 第5回(2018年度)学部1年次生全員対象テスト実施

2019年 10月 2020年度A0(ダビンチ)入試グローバル枠における実施

12月 第6回(2019年度)学部1年次生全員対象テスト実施

◆ 京都工芸繊維大学におけるCBT英語スピーキングテストの実施実績

種別・回数	実施日	受験者数	テストバージョン
第1回(2014年度)1年次対象	2015年1月20～22日	596 (延べ686) [1年次生 551 + モニター 45]	Ver. 1, 2, 3
第2回(2015年度)1年次対象	2015年12月20日	644 (延べ713) [1年次生 575 + モニター 69]	Ver. 4, 5
第3回(2016年度)1年次対象	2017年1月7, 8日	621 (延べ727) [1年次生 568 + モニター 53]	Ver. 6, 7, 8
2018年度AO入試グローバル枠	2017年12月2日	10 (第二次選考)	-
第4回(2017年度)1年次対象	2017年12月16, 17日	644 (延べ798) [1年次生 567 + モニター 77]	Ver. 9, 10, 11
2019年度AO入試グローバル枠	2018年10月27日	10 (第二次選考)	-
第5回(2018年度)1年次対象	2018年12月15, 16日	644 (延べ782) [1年次生 587 + モニター 65]	Ver. 12, 13, 14
2020年度AO入試グローバル枠	2019年10月5日	24 (第一次選考)	-
第6回(2019年度)1年次対象	2019年12月15, 16日	656 (延べ796) [1年次生 586 + モニター 70]	Ver. 16, 17, 18
2021年度AO入試グローバル枠	2020年11月(予定)	(第二次選考)	-
第7回(2020年度)1年次対象	2020年12月12日(予定)	オンライン (在宅) 受験	Ver. 15, 19, 20

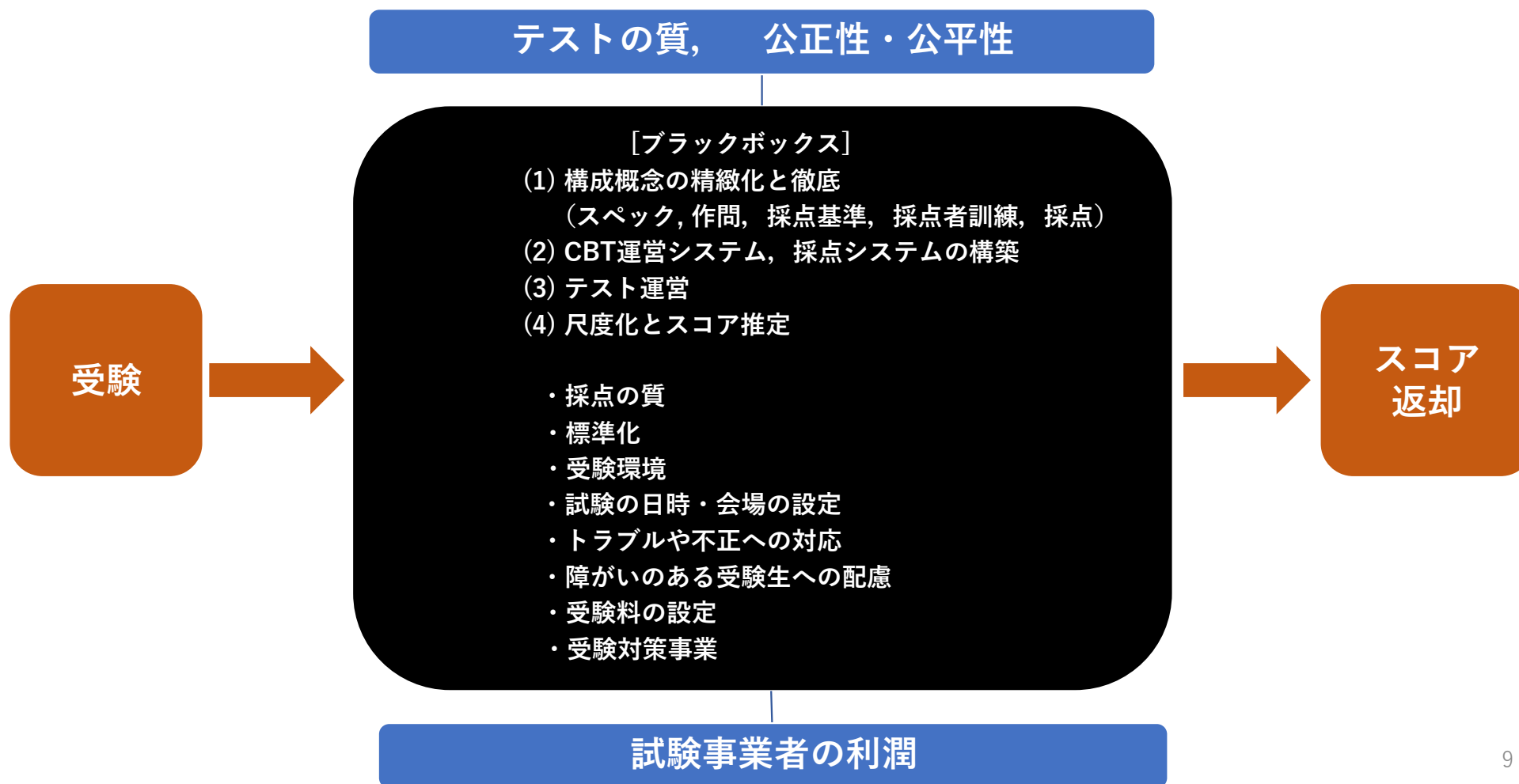
※モニター: 異なるテストバージョンを受けた受験者のスコアを統計的に等化するために、全バージョンを受ける受験者

大学入試へのスピーキングテスト導入プロジェクト <https://kitspeakee.wordpress.com>

◆関連する論考等（抜粋）〔※事前資料として配布〕

- Hato, Y. (2005) Problems in top-down goal setting in second language education: A case study of the “Action Plan to Cultivate ‘Japanese with English Abilities.’” JALT Journal. Vol. 27, No. 1. pp. 33-52
<https://jalt-publications.org/sites/default/files/pdf-article/jj-27.1-art2.pdf>
- 羽藤由美 (2006) 英語を学ぶ人・教える人のために―「話せる」のメカニズム. 世界思想社
- 羽藤由美, 神澤克徳 (2016) CBT英語スピーキングテストの開発と実施: 入試への導入にむけた試みの検証. 京都工芸繊維大学情報科学センター広報誌. No. 34. pp. 30-48
<https://kitspeakee.files.wordpress.com/2016/01/e5ba83e5a0b1no-34e68a9ce3818de588b7e3828a.pdf>
- 羽藤由美 (2016) 定期テストから入試へ: 高・大をつなぐスピーキングテスト開発の現場から. 英語教育. 2016年12月号. 大修館書店. p. 36
- Hato, Y., Kanzawa, K., Tsubota, Y., Mitsunaga, H. & Underhill, N. (2016) Developing rating scales for a CBT speaking test of English as a lingua franca. ETAS Journal. Vol. 34, No. 1. Special Supplement: Testing the waters—Issues in English language assessment. pp. 32-4
- 羽藤由美 (2018) スピーキングテストの開発・運営から見えてきたもの. 東京大学高大接続研究開発センター主催シンポジウム報告書, 大学入学者選抜における英語試験のあり方をめぐって. pp. 41-55
<https://www.ct.u-tokyo.ac.jp/images/400081175.pdf>
- 羽藤由美 (2018) 民間試験の何が問題なのか―CEFR対照表と試験選定の検証より. 南風原朝和(編). 検証 迷走する英語入試―スピーキング導入と民間委託. 岩波書店. pp. 41-68
- 羽藤由美 (2018) 大学入試へのスピーキングテスト導入のインパクト: テスト開発の実践に基づく考察. 英語教育. 2018年8月号. 大修館書店. pp. 28, 29
- Hato, Y., Kanzawa, K., Mitsunaga, H. & Healy, S. (2018) Developing a computer-based speaking test of English as a lingua franca: Preliminary results and remaining challenges. WASEDA Working Papers in ELF (English as a Lingua Franca). Vol. 7. pp. 87-99
- 神澤克徳, 森真幸, 坪田康, 羽藤由美. (2019) 全国学力テスト中学校英語「話すこと」調査の円滑な実施に向けた一提言: 京都工芸繊維大学におけるCBTスピーキングテスト開発・運営の実績を踏まえて. 京都工芸繊維大学情報科学センター広報誌. No. 37. pp. 22-36
<https://repository.lib.kit.ac.jp/repo/repository/10212/2401/>
- 羽藤由美 (2019) 国立大学は若者を犠牲にすることに加担するな―迷走を続ける英語入試改革の現状. 岩波科学. Vol. 89, No. 10. pp. 905-913
https://www.iwanami.co.jp/kagaku/Kagaku_201910_Hatou.pdf
- ※羽藤由美 (2019) 2020年度英語入試改革の構造的欠陥. 指導と評価. 2019年11月号. 日本図書文化協会, 日本教育評価研究会. pp. 9-12
- 福永文子 (2020) 英語スピーキングテストで測るべき「力」は何か? (羽藤へのインタビュー記事) 学研・進学情報. 2020年4月号. pp. 2-5
- ※羽藤由美 (2020) 英語入試改革の挫折から迷走を抜け出す道を探る. 現代思想. 2020年4月号. Vol.48-6. 青土社. pp.72-84.
- 羽藤由美 (2020) 言語を言語として使うスピーキング指導の基本のキ. 新英語教育. 2020年6月号. 高文研. Vol. 609. pp. 7, 8
- 羽藤由美 (2020) 英語入試改革の挫折から対案の可能性を探る. 宮本友弘(編). 東北大学大学入試研究シリーズ. 金子書房. pp.96-128

- ◆ テストの質や公正性・公平性と試験事業者の利潤の間にはトレードオフがある。
特にスピーキングテストは危うい。→ 入試を安易に民間に託す前に熟慮を！



◆ 構成概念（当該のテストで測りたいもの）

The ability to **achieve a given task** utilising spoken language proficiency and 21st century skills (creativity and innovation, critical thinking, problem solving, global awareness)

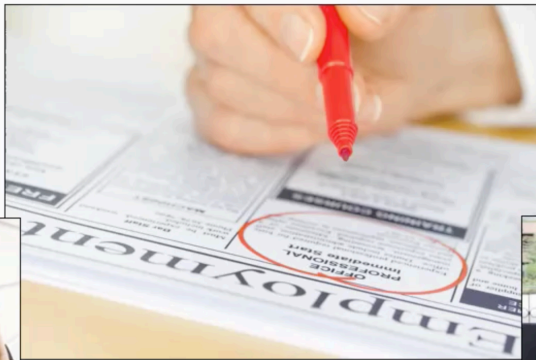
◆ 構成概念の精緻化：タスク

Conversation 1

Susan and Kenji are graduating from university soon. They are talking about their future careers. Listen to the conversation. Then, answer **Question 4** and **Question 5**.



Susan



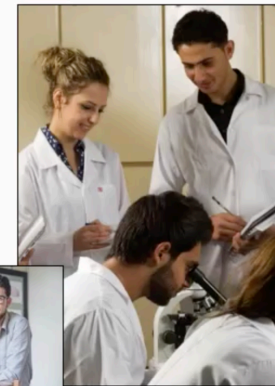
Kenji

Conversation 2

Bill is talking to Mariam about a problem concerning Judy, who is one of his laboratory members. Listen to the conversation. Then, answer **Question 6** and **Question 7**.



Bill



Mariam

◆ 構成概念の精緻化：音声プロンプト



◆ 構成概念の精緻化：評価観点，評価基準

Revised rating scales (used in the 4th administration, Jan 2017)

Score	Task Achievement (80% weighting)	Task Delivery (20% weighting)
5	The task is achieved, being developed with a satisfactory level of detail.	The delivery is mostly confident. Given time is well used without obvious problems with delivery such as intrusive pauses, hesitations, or repetitions.
4	The task is mostly achieved, with some supporting detail in places.	Given time is quite well used despite some problems with delivery such as slow rate of speech, pauses, hesitations, or repetitions.
3	The task is minimally or partially achieved, being supported with some basic detail.	General meaning comes across, but given time is not effectively used because of problems with delivery such as slow rate of speech, pauses, hesitations, or repetitions.
2	The task is addressed, but there is no or very little supporting detail.	The speaker keeps trying, but problems with delivery (e.g. slow rate of speech, pauses, hesitations or repetitions) allow a very limited amount of meaning to be conveyed.
1	The task remains essentially unachieved, though there may be some relevant words.	The speaker gives up trying, or problems with delivery (e.g. slow rate of speech, pauses, hesitations, repetitions) are fatal to meaning coming across.
0	There is no relevant contribution (e.g. content is entirely unconnected to topic).	The speaker does not start the task (e.g. s/he is silent, utters only fillers, or just says, 'I don't know').